



読む人へ届ける思い 入賞112点を紙上表彰

小学生が児童書を読み、その魅力を絵と文で構成した「本の帯」にして伝える第18回大阪こども「本の帯創作コンクール」(大阪読書推進会、朝日新聞大阪本社、日本出版販売労働組合主催)の入賞作が決まりました。低、中、高学年の課題図書、自由図書の各部門に12都府県から計309校、9847点の応募があり、最優秀の大阪府知事賞など112点が選ばれました。

課題図書部門で大阪府知事賞、朝日新聞社賞、大阪国際児童文学振興財

団賞に選ばれた9作品は「帯」として印刷され、課題図書に巻かれ、大阪府書店商業組合加盟の主要書店に並びます。

表彰式は新型コロナウイルスの感染防止のため、今年も中止になりました。受賞者名を紹介し、府知事賞と朝日新聞社賞に輝いた受賞者のみなさんの作品と声をお届けします。

(受賞者コメントは趣旨を変えずに一部手直ししています)



熱量が伝わってきた

大阪国際児童文学振興財団理事長
宮川健郎・審査委員長

する日常から少し離れ、想像を広げて考へていることがよく伝わってきました。高学年になると、絵の言葉で明確に表現できていまし

た。本の帯は、自分や身の回りの人

から自分が受け取った思いに釣り

いました。

この学年の人も本を一生懸命に

楽しんで読んだことが伝わる帯ばかりでした。コロナ禍で本と向き合

う時間が多かったのでしょうか。

例年以上に、自分がどう読んだ

か、熱量が伝わってきました。

低学年は、「このまままたま

る本が多かったと思います。生活

から自分が受け取った思いに釣

りました。

この学年は、「このまままたま

た」と思えます。生活

から自分が受け取った思いに釣

りました。

この学年は、「このまままたま

た」と思えます。生活</